

さくら



令和8年2月24日(火)

わが愚かさを悲しむ

以前、京都のホテルに宿泊した時、客室で「仏教聖典」という本を見つけました。興味を持って読んでみました。いくつもの心揺さぶる言葉があったので、自分でも購入しました。今でも、時折ページをめくり、自分自身に問いかけています。

目次の前に、「法句経(ほっくぎょう・ほっくきょう)」というお経から抜き出した、いくつかの言葉が書かれています。その中に次の言葉があります。

「わが愚かさを悲しむ人あり。この人すでに愚者にあらず。自らを知らずして、賢しと称するは愚中(ぐちゅう)の愚なり」

簡単に説明すれば、「自分の愚かさに気づいた人は、もう愚かではない。自分を愚かだと思わず、賢いと思っている人こそ、とても愚かな人だ」というところでしょうか。

この考えは、私たちの人生において、とても大切なことです。今、あらためて、自分自身の心に問いかけてみましょう。嘘をついてしまったとき。自分の失敗を人のせいにしてしまったとき。ルールや約束をやぶってしまったとき。自分勝手な考えで、誰かを傷つけたとき。人を裏切ったときなど。皆さんはどのような気持ちになりますか。

もし皆さんが、自分の誤った行いが心にひっかかり、気がとがめ悲しい気持ちになったとしたら、それは反省できている証です。そして、あなたの心の中に良い心が芽生えているのです。

人はだれでも失敗をします。時間を巻き戻して、失敗がなかったことにはできません。だからこそ、失敗をしてしまったときは、何がいけなかったのかをしっかりと考え、同じ失敗をしないように行動することが大切なのです。そうすることで、あなたは愚者にならずにすむのです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

